



鈴木正人 議員
市制施行75周年と非核平和都市宣言の
制定への市長の思いは!!

問 市制施行75周年の大きな節目の年を迎えるに当たっての市長の思いや現在の取組、今後目指していることは。

答 周年記念の様々な取組を通して市民に本市の特色やすばらしさを改めて感じていただき、郷土に対する愛着と誇りを持つていただけるきっかけになるよう市制施行75周年を盛り上げていきたい。また、市制施行75周年であると同時に、終戦80年という節目の年でもあり、令和7年には非核平和都市宣言を制定し、これまで願っていた核



星野雅春 議員
事故や犯罪の解決に役立つ防犯カメラ
設置にしっかりと補助を!!

問 闇バイトなど、現在の社会情勢についての認識は。

答 闇バイトを紹介した強盗事件が昨今、関東地方をはじめ全国各地で発生し、市内においてもその前兆行為と思われるような業者の訪問があったと警察などから聞いて認識している。本市では、街頭防犯カメラの設置や青色防犯パトロール車による巡回等による防犯対策を実施している。また、市内で起こっている犯罪情勢やその対策など、刈谷警察署等から提供された情報を基に、あいかりやLINE、



城内志津 議員
バリアフリー化は当事者と推進し、
児童館は18歳までの居場所となる取組を!!

問 車椅子ユーザーから、かきまるバス乗降時の運転手の介助への不安など、利用しづらさの声が届いている。実際にバスを利用しながら、当事者と運転手の相互理解を図り、他の乗客

ず研修を行うよう話をしている。様々な機会を捉えて、障害のある方と乗務員が意見交換できる場を設けていく。

問 児童館はゼロ歳から18歳までの全ての子どもたちが無料で利用できる児童福祉施設だが、小学生以上の利用が少なく、中学生の利用は全体の僅か2・4%である。18歳までの児童が利用しやすい取組をしないか。



中嶋祥元 議員
公園の駐車場対策、ドッグラン、
おむつ台設置等で市民満足度向上を!!

問 ミササガパークやフローラルガーデンよさみの駐車場の看板が見にくい。また入り口が狭いため安全対策が必要では。

答 県の設計基準等に基づき整備している。フローラルガーデンよさみでは看板付近が植栽の繁茂等で見にくくなっていった。植栽剪定や新たな看板設置等の対策を検討していく。

問 魅力あふれる公園づくり構想のアンケートの中で、市民からドッグランを設置してほしいという要望がある。衛生面等を配慮すると、ペットエリアを



山本シモ子 議員
子供、保護者が安心して通園できる
保育と学童保育所に冷蔵庫設置を!!

問 乳児園化は、子供や保護者に新たな負担をかけている。なぜ乳児園にしたのか。

答 2歳児までのクラスに待機児童が多く、保育需要に対応するため、乳児園化による受入れ枠の拡大を図ることとした。

問 保育を分断している乳児園・幼児園化はやめ、元の保育園に戻すべき。

答 元の形に戻すことは、現段階では検討していない。2歳未満児の育休退園は子供や保護者を悲しませている。育休退園の基準をなくすべき。



稲垣雅弘 議員
学校・家庭・地域連携の受皿の
「つ」としてプレーパークの導入を!!

問 子供の冒険遊び場として、各地の公園や神社、お寺の境内などにプレーパークが設置されている。他の自治体では、小学校の校庭にプレーパークを開設し、放課後だけでなく、土日の活動を通して学校・家庭・地域の連携づくりにも役立てている事例があるが、教育的効用についての考えは。

答 プレーパークは、一般的に禁止事項を極力少なくして、子供がやってみたいと思つたことを自分たちで実現できるように目指した遊び場と言われている。

編集後記
かけはし

◆市民意識調査の結果が出ました。配布は5000票、回答は2966票で回答率は59・3%でした。住みやすさは2004年の76・5%から2024年は85・5%に上昇しています。反面、市に対して誇りや愛着を感じている市民は2014年の75・8%から2024年は64・1%に下がっています。刈谷市を住みやすいと感じてくださることは大変嬉しいことですが、住んでいるうちに愛着を感じる方が減っていることは残念です。また、アンケートでは、歴史や文化財の保護活用の重要度は最も低くなっていました。刈谷市の歴史に関心を持っていたことと、刈谷市に誇りや愛着を感じてもらうことはつながっているのではないかと思います。

刈谷市は徳川幕府の祖である家康の母、於大の方の縁の地であり、日本のエジソンと呼ばれる加藤与五郎博士が生誕した地でもあります。また、トヨタ自動車は豊田自動織機の自動車部から始まり、依佐美送信所はI E E Eマイルストーンに認定されています。市民の皆様が愛着を持ってもらえるよう、一層市に働きかけていかなばならないと思うばかりです。

◆今回の執筆にあたり、編集後記を「かけはし」と名づけたのは、故山崎高晴議員とお聞きしました。3期12年にわたって刈谷市議会を支えられた先輩議員の想いを胸に、市民の皆様が刈谷市に住んでよかったと言っていたできるよう、また、市民の皆様との「かけはし」に一緒なれますよう委員一同誠心誠意務めてまいりますので、今後ともよろしくお願いいたします。

(議会広報委員会)